

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073200273		
法人名	株式会社 裕生堂		
事業所名	グループホーム 陽だまり倶楽部 南ヶ丘		
所在地	福岡県大野城市南ヶ丘2丁目1番12号 (電話) 092-596-5000		
自己評価作成日	平成 31年 1月 21日	評価結果確定日	平成 31年 3月 28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

食事を30年12月より外注することにより利用者様と過ごせる時間が多くなり日々の中で散歩に行ける時間や施設内で利用者様に寄り添いゆっくりとした時間の中で関わる事を意識して支援をしています。誕生日を迎えられた方にはスタッフの手作りケーキにて同じフロアの皆様とうたを歌い祝福しお祝いをしています。また季節を感じて頂けるようその時々で施設内の飾りを変えたり、おやつを持って公園や桜にコスモスなどを見に行っています。ご家族様にも信頼し安心して頂けるように面会に来られた時には日頃の様子や変化をお伝えし問題があれば協力して解決できるよう努めています。体調不良等あれば協力医療機関に速やかに連絡を行い、指示を受けるようにしご家族様へ連絡するようにしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 31年 2月 4日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、店が立ち並ぶバス通りからわずかに入りこんだ住宅街に位置している。向かいには公民館と公園があり、地域行事にも参加しやすい環境にある。職員は年齢層も広く、利用者に様々な観点から関わり、事業所の理念である「笑顔を引き出す関わり」をケアに反映させている。更に、各職員が特技を生かしたユニークなサービスを提供しており、利用者の生き生きとした表情から、家族のような関係が伺える。また各種委員会を設け、ケアの質の向上に向けた話し合いを深めている。今後、マニュアルを再読し、基本を押さえた内部研修を充実させていくことにより、職員の更なる知識や技術の習得が期待される。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、理念を声に出して読み共有し実践につなげている。	事業所は職員で作成した独自の運営理念を掲げており、事務所内に掲示している。利用者が住み慣れた地域で安心して、笑顔で過ごせることを目標として、利用者に尊敬の念を持ち、明るく接するように職員全員で共有し取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出来る限り参加している。地域の保育所とは年に1回クリスマス行事として定着している。	職員は利用者と共に地域の餅つきや夏まつりに参加している。また、事業所主催の敬老会には地域にも呼び掛け、保育園児との交流も恒例となっている。近所からお花を頂く等、地域との良好な関係が築かれている。更に地域の介護サービス相談員の訪問もある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊者の捜索訓練に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設から現状や日頃の活動内容、事故報告を行い意見や情報提供を受け日々のサービス向上に活かしている。	会議は2ヶ月に1回開催され、利用者家族、市や地域包括支援センターの職員、区長、民生委員、介護サービス相談員が参加している。会議では事業所側から利用状況等の報告があり、出席者からの質問や意見を受け入れている。出た意見は管理者をはじめ職員と経営者が十分に検討し、事業所運営に生かすよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市・町との連携を密に取り協力関係を築き取り組んでいる。	事業所は行政と電話での連絡の他、直接パンフレットを持参する等、情報交換に努めている。ボランティア依頼をはじめ、市からの協力依頼は出来る限り受け取るようにし、協力関係の構築に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会で状況の確認、及び見直しを行い具体的な行為を理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所は身体拘束をしない方針で、「身体拘束適正化のための指針」を整備し、これを基本とし、委員を中心に年に2回の研修が行われている。危険防止の為に、やむを得ずベッド柵が必要な場合は、家族と話し合い了解を得ている。また日中、玄関は施錠されておらず、特に外出傾向が強い利用者には、職員が付添っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎月、虐待防止について話し合いを行い虐待が行われていないか確認しそれぞれが虐待防止の意識を持ってケアを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、制度を利用されていた入所者がおられ学ぶ機会もあり話し合いを行いながら活用している。	権利擁護に関する制度について、家族に契約時に説明をしている。一部の職員が外部で研修を受け学ぶ機会があり、資料も整備されている。	利用者の権利に関わる職員は、今後、正しく制度が活用されるよう、定期的に内部研修を行い、これを記録に残して、全職員が制度についての理解が深められることを期待します。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い疑問等あれば都度説明を行い理解して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族が意見や要望を言いやすい環境を作れており運営委員会にも家族代表の方に参加して頂いており年に1度、家族会を開いている。	職員は、日々の関わりの中で利用者や家族の要望を聞くようにしている。利用者からの果物や焼き芋が食べたいという意見に対し、干し柿作りや焼き芋会を実施した。また、家族から職員の名前がわかるようにして欲しいという要望には、安全な布製の名札を製作し、利用者や家族の意見を反映できるように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度会議を行い職員の意見、提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者は、職員会議や申し送り時の他、折に触れて職員から意見を聞くようにしている。服薬の確認や情報の共有方法等、職員から出された意見は出来る限り取り入れるようにしている。また、管理者に言い辛いであろうと思われる職員には、他職員が関わって話を聞くなど工夫している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って環境整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別、年齢等を理由に採用対象から排除せず、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の募集や採用は法人が行っており、年齢や性別を採用条件にせず、人柄を重視している。産休制度や産休後の職場復帰が保障され、産休職員の補充もある。また60歳の定年後も本人の希望で働くことが可能で、誰でもが働きやすい職場環境となっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員等に対して人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	事業所は外部研修で同和問題、高齢者の人権について学ぶ機会を提供し、伝達研修を行い、テキストも備えている。また虐待防止委員会を中心に内部研修を行い、全職員で利用者に対する人権の意識を高めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部でも研修を行い外部研修の参加を積極的に行い職員のスキルアップの確保に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を作り勉強会等、サービスの質を向上させていけるよう取り組んでいる。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の状態、意向等を確認して信頼関係を築くようにし安心して生活出来るような関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや意見等を伺いコミュニケーションを密にし信頼関係を築くようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の問題点を考慮し様々なサービスの提供に努める。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が介護されていると一方的な立場ではなく暮らしを共にする家族のような関係を築けるよう努める。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族に情報を伝え、共有し信頼関係を築き一緒に本人を支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の方がまた来ていただけるような雰囲気作りに努めている。	利用者や家族から、馴染みの人や場所について情報を収集している。入居後も馴染みの理容室やかかりつけ医への家族の同行を支援している。また親族や友人等の訪問を受け入れ、利用者の馴染みの関係の継続に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすいテーブル配置や話の仲介に役になり共に支え合えるように支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係性を大切に家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族の希望、意向の把握に努め 困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者が窓から外を見ていたら、外に出たいのかなと察し庭に出て散歩することを促したり、パンが好きと家族から情報を聞けば、ホームでパン作りをするなど、一人ひとりの普段の行動から希望を把握するようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に本人、家族に生活歴の情報提供を頂いたり聞き取りを行いこれまでの経過等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録、連絡ノートを活用し現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、意見や要望を反映し現状に即した介護計画を作成している。	6ヶ月に1回、介護計画を見直している。担当者を中心に他の職員の意見を出し合っ計画の中に取り入れている。家族の筋力低下を予防してほしいという希望を受けてストレッチを計画に入れる等意見を反映させている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応し柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力や行事に参加し安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を築きながら適切な医療お受けられるよう支援している。	受診や情報伝達方法などの入所時に話し合っている。グループホームのかかりつけ医が月2回往診している。その他で受診を希望する場合は家族が対応している。週に1回りハビリを目的に家族が受診に連れていく利用者もいる。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報や変化等、看護師に伝え相談し利用者が適切な看護を受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、家族や病院関係者との情報交換を密に行い病院関係者との関係づくりを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け協力医、家族と十分に話し合い方針を共有しチームで取り組んでいる。	重度化や終末期の在り方については、明文化し利用開始時に利用者やご家族と話し合っている。看取り時は、看護師が必要があれば日に何回でも訪問したり、往診の医師が夜中でも駆けつける体制が整っている。職員は勤務の引継ぎ時に利用者の病状を口頭や連絡ノートで伝え、情報を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習に参加して応急手当、急変時の対応を学んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防署の方に話を聞いたり避難方法を確認している。	マニュアルを作成し、年に2回訓練を行い通報装置の使い方や消火器の使い方なども確認している。米・水を備蓄しており会社に要求を出して、他の品も整備するように努めている。毛布などの防寒については準備されている。	消防署や地域住民へ参加を呼びかけられることを望みます。備蓄については、消防署に相談の上、必要な食料の種類、数量を確認され、確保してほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年配者である尊敬の意を持っての言葉かけを心掛け誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。	虐待防止委員会を職員の中で設置し、話し合いをし、委員が中心になってカンファレンス時に内部研修を行い、必ずノックして部屋に入るなどの取り決めをしている。他の家族や外来者があるときは、利用者のプライバシーについて話さないように徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に寄り添い答えやすいような言葉かけを行い傾聴し自己決定出来るよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状態把握に努め気持ちを考えながらその人らしく過ごせるよう支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を準備したり更衣時には選べる方には着る服を選んでもらったり気に入っていた服を覚えておきその人らしいおしゃれができるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューについての話題や好みについての話など楽しく食事が出来るよう支援している、また、準備や盛り付け、片付けを一緒に行っている。	食事は外注であるが、ご飯と汁物は苑で作っている。お誕生日は本人が好きなメニューを選んだり、職員が本人好みの手作りケーキを作ってお祝いしている。苑で栽培しているトマトやなす、きゅうりなどを食材にして利用者の好みに合わせた料理を出している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食記録している、栄養バランスや水分量の確保、体重の増減にも注意し一人ひとりに合わせた食事形態で提供し支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に応じた口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科の利用を進め等の支援を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を確認しその方のパターンや習慣の把握に努め、必要な方には声掛け、誘導を行いトイレでの排泄、自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりのサインを見逃さず誘導している。尿意のない利用者に対しては、食事前に必ずチェックし明るく声かけをし誘導している。トイレの扉は必ず閉めるなどプライバシー保護にも努めている。排泄に気を付けている結果、パットの大きさが小さくなったという事例もある。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況、状態を把握して看護師に相談したり飲食物の工夫、乳製品の摂取や腹部マッサージ、運動など個々に応じて予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて拒否のある方には声掛けの工夫や立位の難しい方には二人介助等、個々にそった入浴の支援を行っている。	入浴は毎日準備しており、週3回入浴される方が多い。入浴出来ない時はシャワー・足浴・清拭で対応している。拒否が強い利用者に関しては、時間をおいてタイミングをみて声掛けし2度3度促している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し昼食後には昼寝の時間を設け休息出来るよう支援している。夜間寝付けない方には不安を取り除き安心して頂けるような声掛けを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的は周知徹底を行い副作用等は薬情にて確認、薬の変更時には申し送りノートを活用し情報を共有し服薬後の変化の確認に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて食事の盛り付けや食器拭き、洗濯物を畳んだりスタッフと一緒にいき、うたを歌ったり気分転換に散歩に行ったりとメリハリのある日々を過ごせるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって近所に散歩に行っている。また季節ごとに花見に行ったり地域の行事に出掛けられるよう支援している。	梅や桜、バラ園などの花見は季節の行事として計画している。家族が同伴する時もある。時にはお弁当やおやつを持って、菖蒲を見に出かける。 外食については利用者の希望があれば家族が対応している。 近くの八百屋・花店・ケーキ屋等にも利用者の希望で出かけて、一緒に買い物をする。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でおこづかいとして家族から預かり買いたい物があれば本人と一緒に買い物に行ったり購入出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話したり家族からの電話を取りつぎ本人が安心して話ができるよう支援している。また携帯を所持されている方もおられる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な環境になるように温度や湿度に注意し生活感、季節感を感じて頂けるような花や写真などを用いて居心地よく過ごせるよう支援している。	建物自体が回廊になっていて、運動するのにも良い構造になっている。みんなが集まるホールは床暖房である。住宅街の中にあり静かな環境である。 部屋を間違えないように、部屋の扉には本人の笑顔の写真や似顔絵、廊下の壁には景色の写真を飾るなど幼稚な雰囲気にならないように工夫されている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが気持ちよく過ごせるように目配り、気配りを行いソファやテーブル席思い思いに好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合いながら自宅で使っていたもの等を活用し居心地の良く安心して生活出来るよう工夫している。	若い頃の劇団俳優だった利用者の部屋にその頃のポスターが張られていたり、本人が書道の先生で賞をとった素晴らしい作品が飾ってある。お仏壇のある部屋やお孫さんがディスプレイした部屋などそれぞれの利用者が居心地よく過ごせる工夫がある。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下には手すりを設置しており居室内は個々の動線を考慮して安全に生活出来るよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		



項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に、理念を声に出して読み共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に出来る限り参加している。地域の保育所とは1年に1回クリスマス行事として定着している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徘徊者の捜索訓練に参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設から現状や日頃の活動内容、事故報告を行い意見や情報提供を受け日々のサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市・町との連携を密に取り協力関係を築き取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会で状況の確認、及び見直しを行い具体的な行為を理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	毎月、虐待防止について話し合いを行い虐待が行われていないか確認しそれぞれが虐待防止の意識を持ってケアを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、制度を利用されていた入所者がおられ学ぶ機会もあり話し合いを行いながら活用している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い疑問等あれば都度説明を行い理解して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族が意見や要望を言いやすい環境を作れており運営委員会にも家族代表の方に参加して頂いており年に1度、家族会を開いている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度会議を行い職員の意見、提案を聞く機会を設け反映させている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って環境整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別、年齢等を理由に採用対象から排除せず、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員等に対して人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部でも研修を行い外部研修の参加を積極的に行い職員のスキルアップの確保に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を作り勉強会等、サービスの質を向上させていけるよう取り組んでいる。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の状態、意向等を確認して信頼関係を築くようにし安心して生活出来るような関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや意見等を伺いコミュニケーションを密にし信頼関係を築くようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の問題点を考慮し様々なサービスの提供に努める。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が介護されていると一方的な立場ではなく暮らしを共にする家族のような関係を築けるよう努める。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族に情報を伝え、共有し信頼関係を築き一緒に本人を支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の方がまた来ていただけるような雰囲気作りに努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすいテーブル配置や話の仲介に役になり共に支え合えるように支援に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係性を大切に家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族の希望、意向の把握に努め 困難な場合は、本人本位に検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に本人、家族に生活歴の情報 提供を頂いたり聞き取りを行いこれまでの 経過等の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録、連絡ノートを活用し 現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、意見や要望を反映 し現状に即した介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを活用し職員間 で情報を共有し実践や介護計画の見直しに 活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応し柔軟な 支援やサービスに取り組んでいる。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力や行事に参加し安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を築きながら適切な医療お受けられるよう支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報や変化等、看護師に伝え相談し利用者が適切な看護を受けられるよう支援している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、家族や病院関係者との情報交換を密に行い病院関係者との関係づくりを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け協力医、家族と十分に話し合い方針を共有しチームで取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習に参加して応急手当、急変時の対応を学んでいる。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、消防署の方に話を聞いたり避難方法を確認している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年配者である尊敬の意を持っての言葉かけを心掛け誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に寄り添い答えやすいような言葉かけを行い傾聴し自己決定出来るよう努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状態把握に努め気持ちを考えながらその人らしく過ごせるよう支援をしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服を準備したり更衣時には選べる方には着る服を選んでもらったり気に入っていた服を覚えておきその人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューについての話題や好みについての話など楽しく食事が出来るよう支援している、また、準備や盛り付け、片付けを一緒に行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食記録している、栄養バランスや水分量の確保、体重の増減にも注意し一人ひとりに合わせた食事形態で提供し支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に応じた口腔ケアを行っている。必要に応じて訪問歯科の利用を進め等の支援を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を確認しその方のパターンや習慣の把握に努め、必要な方には声掛け、誘導を行いトイレでの排泄、自立にむけた支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況、状態を把握して看護師に相談したり飲食物の工夫、乳製品の摂取や腹部マッサージ、運動など個々に応じて予防に取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて拒否のある方には声掛けの工夫や立位の難しい方には二人介助等、個々にそった入浴の支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し昼食後には昼寝の時間を設け休息出来るよう支援している。夜間寝付けない方には不安を取り除き安心して頂けるような声掛けを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的は周知徹底を行い副作用等は薬情にて確認、薬の変更時には申し送りノートを活用し情報を共有し服薬後の変化の確認に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて食事の盛り付けや食器拭き、洗濯物を畳んだりスタッフと一緒にやり、うたを歌ったり気分転換に散歩に行ったりとメリハリのある日々を過ごせるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって近所に散歩に行っている。また季節ごとに花見に行ったり地域の行事に出掛けられるよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でおこづかいとして家族から預かり買いたい物があれば本人と一緒に買い物に行ったり購入出来るよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族に電話したり家族からの電話を取りつぎ本人が安心して話ができるよう支援している。また携帯を所持されている方もおられる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な環境になるように温度や湿度に注意し生活感、季節感を感じて頂けるような花や写真などを用いて居心地よく過ごせるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが気持ちよく過ごせるように目配り、気配りを行いソファやテーブル席思い思いに好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話し合いながら自宅で使っていたもの等を活用し居心地の良く安心して生活出来るよう工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下には手すりを設置しており居室内は個々の動線を考慮して安全に生活出来るよう工夫している。		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		